

Q-I-001

**NX7000 COBOL85 R4.x からのバージョンアップは可能ですか？**

COBOL85 for IPF R1.1 は新製品であるため、バージョンアップはできません。

Q-I-002

**ランタイム製品は用意されていますか？**

COBOL85 for IPF R1.1 はランタイム製品を用意しておりません。

実行環境のサーバ毎に COBOL85 for IPF が必要です。

Q-I-003

**COBOL85 for IPF R1.1 と R2.x の互換性について教えてください。**

以下の表を参考にしてください。

- COBOL85 for IPF とオブジェクトファイルの組み合わせによるリンク条件

		libneccob.so/libneccob.a		
		R1.1	R2.1	R2.2
.o	R1.1			
	R2.1	×		
	R2.2	×	×	

- オブジェクトファイルの組み合わせによるリンク条件

		.o		
		R1.1	R2.1	R2.2
.o	R1.1			
	R2.1			
	R2.2			

- 実行可能ファイル (.out) と COBOL85 for IPF の組み合わせによる実行条件

		libnecob.so/libnecob.a		
		R1.1	R2.1	R2.2
.out	R1.1			
	R2.1	×		
	R2.2	×	×	

Q-I-004

COBOL85 for IPF と組み合わせて使用可能な COBOL85 for IPF ACOS 互換セット各製品のバージョンを教えてください。

以下の表を参考にしてください。

		COBOL85 for IPF		
		R1.1	R2.1	R2.2
マクロ機能	R1.1	×		
用語機能	R1.1	×		

Q-I-005

サーバを更新する場合、保有するライセンスを移行することは可能ですか？

ライセンスは、購入時に定めた1台の物理サーバに対して使用許諾します。ハードウェア変更やOS変更などプラットフォーム差異を超えてソフトウェア製品の使用権を移動させること(転用すること)は認めておりません。詳細は製品添付の使用許諾書をご確認ください。

Q-C-001

コンパイル時に「LCB010 内部コンパイラエラーが発生しました。」というエラーが出力されました。どのような原因が考えられますか？

次のような原因が考えられます。

- インストールが正しく行われていない
- テンポラリ領域が不足している
- C コンパイラが起動できない

- 内部ファイル識別名のデータ名にハイフン(-)が使用されている
- 手続き名間の命令数が多い

上記原因に当てはまらない場合、製品窓口までお問合せください。

Q-C-002

**リンク時に 31 個の Warning エラーが発生します。この Warning エラーを抑制する方法はありませんか？**

次の方法により、Warning エラーを抑制することができます。

- 環境変数 LDOPTS に +vnoshlibunsats を追加指定する。
- コンパイルオプションに -Wl, +vnoshlibunsats を追加する。

Q-C-003

**C とリンクするとき、C を 32bit で使用できますか？**

できません。アプリケーションは必ず 64 ビットで作成してください。C コンパイラの 64 ビットオプション (+DD64) を必ず指定してください。また、リンク時のライブラリも必ず 64 ビット版を使用してください。

Q-C-004

**cob コマンドの引数に C プログラムを指定した場合、"Error 24:"というエラーが出力されるのですが、**

cob コマンドから C プログラムをコンパイルすると、ANSI 標準オプション (-Aa) が指定されます。ANSI 拡張モード機能を使用するためには、C プログラムを C コンパイラにより単独でコンパイルするか、cob コマンドのオプションに -Wc, -D\_HPUX\_SOURCE, +e を指定してください。

Q-C-005

**実行時にファイル名を変更したいのですが、コンパイル時に「F D1030 装置名または識別名の指定が誤っています。」という FATAL エラーが発生します。**

SELECT 句の記述方法が誤っているためです。SELECT 句の記述方法を確認してください。

×	SELECT ~ ASSIGN TO FILENAME-UFS
	SELECT ~ ASSIGN USING FILENAME-UFS

Q-R-001

**Oracle Pro\*COBOL との連携はできますか？**

連携可能です。ただし、次の注意事項があります。

- Pro\*COBOL のオプションに comp1=integer を指定することはできません。
- ホスト変数に COMP-1 および COMP-2 を使用する場合は、「ホスト変数の同値化」を利用したコーディングを行ってください。詳細は、Pro\*COBOL のマニュアルをご参照ください。

(記述例)

```

EXEC
    SQL BEGIN DECLARE SECTION
END-EXEC.
01 EMP-TABLES.
    03 EMP-EMPNO COMP-1.
    03 EMP-SAL COMP-2.
*
EXEC
    SQL VAR EMP-EMPNO IS INTEGER(2)
END-EXEC.
EXEC
    SQL VAR EMP-SAL IS INTEGER(4)
END-EXEC.
EXEC
    SQL END DECLARE SECTION
END-EXEC.

```

- ホスト変数に重ね符号付き外部 10 進数項目を使用される場合、COBOL85 for IPF のコンパイルオプションに -CS を指定してください。その場合、アプリケーションを構成するすべてのプログラムのコンパイル時に -CS オプションの指定が必要です。
- Pro\*COBOL のプログラム (.pco) により共有ライブラリを使用する場合、メインプログラムに Pro\*COBOL が必要とするライブラリをすべてリンクしてください。

Q-R-002

**アプリケーションを実行すると次のエラーが表示されます。**  
 /usr/lib/hpux64/dld.so: Unsatisfied code symbol 'xxxxx' in load module  
 '/usr/lib/hpux64/libneccob.so'.

アプリケーションを実行するために必要な関連製品がリンクされていない可能性がありますので、コンパイルまたはリンク時のライブラリを確認してください。

Q-R-003

**アプリケーション実行時に「COB010 不正 10 進データを検出しました。」というエラーメッセージが出力されるのですが。**

転記、比較、算術命令で参照しているデータの初期値が指定されていない可能性があります。データの初期化を行うか、コンパイルオプションに -vi/-vs/-vz/-vnn オプションを指定して初期値を設定してください。

---

Q-R-004

**集団項目の大きさが、NX7000 や ACOS の COBOL85 と比較して大きくなっているのですが。**

集団項目内にポインタデータ項目が集団項目内に定義されていることが考えられます。COBOL85 for IPF では、ポインタデータ項目は 8 バイト長のデータであり、8 バイト境界のアドレスに割付けられます。

---

Q-R-005

**アプリケーションの異常終了時に、異常終了のエラーメッセージ以外に次のエラーメッセージが出力されるのですが。  
「COB506 標準入力終了した為、小入力あるいは確認入力できません。コード= ...」**

アプリケーションの起動時にリダイレクトを使用している場合、異常終了時のリターンコードの入力できないため、上記エラーメッセージが出力されます。

(例)

```
> a.out < input_file
```

入力ファイルにリターンコードの行を追加するか、環境変数 COB\_RUNERR に NO\_PAUSE を指定してください。シェルからのバッチ起動では、環境変数のご使用を推奨します。

---

Q-R-006

**重複キーがある場合の SORT 結果が NX7000 COBOL85 の動作と異なっています。重複キーがある場合の SORT 結果をレコード順にする方法はありませんか？**

SORT 命令に DUPLICATE が指定されていない場合、重複キーレコードの SORT 結果は不定です。SORT 結果をレコード順にするためには、SORT 命令に DUPLICATE を指定してください。

---

Q-R-007

**SORT の文字比較順序をユーザ定義による任意の文字比較順序としたいのですが。**

SORT 命令の COLLATING SEQUENCE 句に符号系名に指定した文字比較順序を指定してください。

---

Q-R-008

**アプリケーション実行時に「COB209 数字と符号の重ね合わせ形式が異なります。」というエラーメッセージが出力されるのですが。**

呼び出し側と呼ばれる側のコンパイルオプション (-CS) が不一致であることが原因です。呼び出し側と呼ばれる側のコンパイルオプション (-CS) を一致させてください。

---

Q-R-009

Oracle Pro\*COBOL を使用したデータベースアクセスの実行が遅いです。実行性能を向上させる方法はありませんか？

次の方法でデータベースアクセスの性能が向上します。

- Pro\*COBOL のプリコンパイルオプションに以下を追加する。

- `release_cursor=no`
- `hold_cursor=yes`
- `maxcursors=100`

- 環境変数 `NLS_LANG` の設定をデータベースと同一にする。

---

Q-W-001

Remote Workbench から Pro\*COBOL のプリコンパイルができません。どのような原因が考えられますか？

次のような原因が考えられます。

- プリコンパイルに必要なファイルが不足している

Remote Workbench は、Oracle で提供されている `demo_procob.mk` を使用します。Oracle10g を使用する場合、「Oracle10G Companion CD」の媒体 (CD) から `demo_procob.mk` を含む demo 環境をインストールする必要があります。インストールの手順は Oracle の添付資料をご参照ください。インストールの有無を確認するには、Oracle Universal Installer を起動し、「インストール済みの製品…」ボタンをクリックし、「インベントリ」のダイアログボックスを表示します。Oracle Database 10g Products の下に、「 Oracle Demos 10.1.x」という項があれば、インストールされていることとなります。

- 必要な環境変数の設定が不足している

次の環境変数の設定が正しいことを確認してください。

- `PROCOB`
- `PROMAKEFILE`
- `ORACLE_HOME`
- `SHLIB_PATH`

- Oracle の各種設定ファイルの内容が誤っている

`$ORACLE_HOME/lib/env_precomp.mk` の `COBFLAGS` の設定内容が正しいことを確認してください。

(例)

```
COBFLAGS=-M -Cx -Cu -Jx
```

---

Q-W-002

リモート側 (サーバ側) のバージョンとクライアント側のバージョンが異なっていても利用可能ですか？

利用できません。リモート側 (サーバ側) とクライアント側のバージョンは同一のものをご利用ください。

Q-W-003

COBOL85 Remote Workbench for IPF R1.1 から R2.x へのバージョンアップにおいて注意事項はありますか？

R2.x のインストール前に R1.1 をアンインストールする必要があります。その際、以下の作業を行ってください。

- リモート側 (サーバ側) 作業
  - アンインストール前に、リモート側 (サーバ側) の設定ファイル (/usr/bin/cobrmstsubrc) を退避してください。

(例)

```
> cp -p /usr/bin/cobrmstsubrc /tmp/cobrmstsubrc
```

- クライアント側の作業
  - アンインストール前に、現在使用しているキャッシュディレクトリを確認してください。キャッシュディレクトリは、メニューの [環境(N)]-[プロパティ(P)]-[キャッシュ設定] の「キャッシュディレクトリ」の設定内容で確認可能です。
  - アンインストール後に、先ほど確認したキャッシュディレクトリ内のユーザ名のディレクトリにある「ax????」のファイルを削除してください。